

みえ経協

JANUARY 2006

1

vol.3

MIE EMPLOYERS' ASSOCIATION



日本人の心のふるさと伊勢神宮



目次・主な内容

■ 経協藤井会長新年挨拶	2	4. 連合三重定期大会・経協会長祝辞	9
■ 日本経団連奥田会長年頭所感	3	5. 全国労働委員会連絡協議会総会	9
■ トップインタビュー	4	6. 労管部会「HRD部会」	9
■ 新春会員ご挨拶	6	7. 労管部会「活力ある職場風土を目指す部会」	9
■ 協会事業活動		8. インターンシップ成果発表会	9
1. 第8回経協コンペ	9	■ 労働委員会制度創設60周年記念	10
2. 三重県産業安全衛生大会	9	■ Window事務局	11
3. 労管部会「職場に活力を生む人事管理を目指す部会」	9	■ 行事予定・業務日誌	12



新年のご挨拶

三重県経営者協会

会長 藤井 賢三

明けましておめでとうございます。

会員各位におかれましては、お健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃のご支援、ご協力にあらためて感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、6月（年央）政府の基調判断は「景気の弱さを脱する動きが見られ緩やかな回復をしている」としながらも「踊り場」的な状況にあり地域の中小企業においては、なかなか景気回復を実感するに至っていないとのことでしたが、後半には踊り場も脱し、自立回復力を復元させ、明るさが展望できるまでになって参りました。

幸いにして、当東海地域は二大プロジェクト（中部国際空港、2月17日開港・日本国際博覧会「愛、地球博」3月25日開幕、参加者2,200万人〔目標1,500万人〕によります経済的波及並びに情報通信、自動車、一般機械等「ものづくり」復活の追い風に乗り全国的にも恵まれた一年でした。

さらに、大きな出来事として全国民の注目でありました7～8月の「郵政民営化法案」での衆参両院における苛烈な闘いも総理の一貫した信念に基づき「乾坤一擲」解散を決意し国民にその是非を問う総選挙（9月11日）において予想以上の結果（与党327議席、2/3を越す）を観るに至ったことであります。

原油高や総選挙後の経済への影響につきましては、景気の持続的な回復に向けて足かせとなっていました三つの過剰「不良債権」「雇用」「設備」も解消が進みだし、過去の循環的回復と比べて、回復の持続力が強いとの見方が浸透をしていますが、今回の息の長い好景気は外需が大きく貢献していることから、米国、中国の経済動向によっては、本年にこれまでのしわ寄せが予期されていることもあり、今こそ、冷静な視点が必要といえます。

当協会も本年7月25日、創立60周年（昭和21年7月25日設立）を迎えます。

50周年が大きな節目とすれば次の10年（創立60周年）は1つの区切りであり、始まりでもあります。

会員の皆様のニーズにお応えするという原点に立ち、志を新たに「経営者よ、正しく 強かれ」へむけた取り組みをより推進して参りますので、一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各位の社業のますますのご発展と皆様方が今年一年もご健勝で、ご活躍されますことをご祈念申し上げご挨拶といたします。



年頭所感

(社) 日本経済団体連合会

会長 奥田 碩

明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、爽やかなお気持ちで新春を迎えられたことと存じます。

戦後の混乱期からそれぞれの地域社会における経営者の指導的存在として、地域経済に貢献してこられた各地経営者協会ではありますが、今年は六十周年を迎えられる協会が数多くあると伺っております。

私は、各地経営者協会がこれまで積み重ねられた多大な実績に賛辞と謝辞を申し上げるとともに、今般、佳節を迎えられることを心よりお慶び申し上げます。

さて日本経済は、ようやく曙光を見出せる局面に至りました。企業による経営革新の努力に加え、構造改革に向けた小泉総理の情熱と国民の旧弊打破への意思がこれを可能にしたと私は考えております。しかし、グローバル化やICT高度化の波は大きく速いうえ、わが国はいままさに、超高齢社会・人口減少社会に足を踏み入れようとしております。そうしたなかで、改革の成果が問われるのはこれからであり、改革はいまだ道半ばであるといわざるを得ません。「活力と魅力溢れる日本」の実現のために改革の流れを加速させ、本年を「新たな飛躍」の年にしたいと存じます。

日本経済を自立かつ持続的な成長に導くのは、民の力にほかなりません。不安定な原油、資源価格や海外経済の動向などの楽観できない要因はありますが、企業業績の回復が設備投資や個人消費、住宅投資の拡大に結びつくなど、民需中心の好循環が始まっており、これをさらに拡大、加速させることが求められます。

対外政策の分野では、BRICsの急速な台頭など、国際環境の変化が経済大国・日本に新たな役割を求めています。日本経団連としても、民間外交を通じて課題解決に力を尽くして参りたいと存じます。

各地経営者協会と日本経団連とが、様々な課題に二人三脚で取り組み、わが国の経済社会の発展に貢献することが私の念願であります。

皆様のご健勝を祈念し、年頭の挨拶といたします。



会員企業各社、社長の素顔に迫る「トップインタビュー」、第2回目は経協副会長であります(株)菊川鉄工所、代表取締役会長、菊川靖之さんにお話を伺うことができました。

技術と人への挑戦

～会社ぐるみで培ってきた信頼と安心が基本～

(株)菊川鉄工所 代表取締役会長 菊川 靖之さん

～本日は、年末の最中、大変お忙しい所、時間を割いて頂きありがとうございます。早速ではございますが、まずはじめに、11月、県下でも超越された創立110周年を迎えられると、お伺いしております。創業から現在に至りますまで、多くの出来事、試練等に遭遇されたことと思いますが、強く印象に残ることはどんなことですか。～

菊川鉄工所は日本で始めて木工機械メーカーとして、1897年(明治30年)伊勢市大湊町で創業、この大湊の歴史は古く遡ること紀元前80年、崇神天皇の時代に、ここで船を造らせ交通の便をはかられたと伝えられています。たしか、1913年(大正2年)技術担当役員に就任した菊川清作さんが母校の京都帝国大学(現京都大学)の要請を受け助教授として招聘され、その後、教授となり先進欧米諸国を歴訪し、後進の指導育成並びに業界への多大な貢献により正三位勲二等を叙勲され、その教え子が京都大学、初代工学部長をされたと伺っています。1942年(昭和17年)には工作機械製造事業法による許可会社に指定され(軍需工場)、ターレット旋盤、横型フライス盤等を生産したことがあり、当時の従業員は約800名いたことでした。また、昭和21年には日本労働総同盟が結成され、当社も同年11月に労働組合の結成をみるに至りました。私が五代目の社長に就任しましたのが1963年(昭和44年)3月10日で35歳の時です。1997年(平成9年)に社長を息子にゆずり、現在、私は会長として社長を支援しているのが実情です。

～会社の経営理念あるいは根底を流れる企業風土についてお聞かせください。～

社是、社訓は1982年(昭和57年)に制定をしました。社是は(協力・進取・謙譲・誠実)とし社訓は(地域社会に奉仕しよう・礼節を重んじよう・社内を清潔にしよう・心身を鍛錬しよう・計画性を重んじよう)です。今でも記憶がハッキリしていることは、昭和11年、三代目社長の菊川武雄さんは当時、従業員から兄さん、兄さんと親しまれ、社内においても〇〇さん、△△さんと呼びあう家族的なつながりがありました。この家族的な信頼関係が今日においても受けつがれていますし、この企業風土が長い歴史において、雇用調整を一度もやらずにやってこられたことは、私たちの大きな財産です。

～100年の歴史の中で経営者の方は技術畑が多く、会長さんだけは労働法をやられた労務屋さんとお聞きしましたが「技術と人」を統合し事業の発展につなげられたことについて大切なことは何かを是非お聞かせください。～

当社の長い歴史の過去帳を見ますと、経営陣全員が技術畑(工学部、理工学部)の技術屋集団の会社なんです、私だけが変わってしまっ

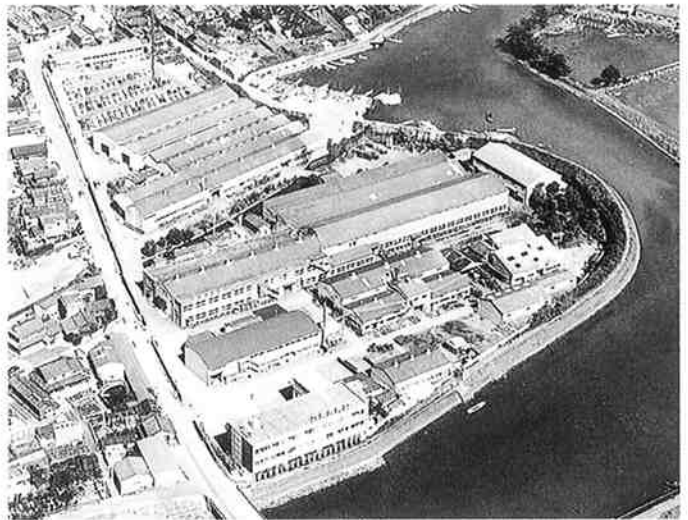


(創立100周年記念式典・祝賀パーティーより)

学部で労働法を学びました。社内にも技術優先の傾向がありましたが、それを支えるのは人であり、その人の働きがい、生きがいに目を向け「技術と人の統合」に努力をし、これを実現していくことが会社の発展と働き人の幸福につながるものと信じているからです。

～ご趣味又は休日の過ごし方並びに経営者協会へのご要望、ご意見がありましたらお聞かせください。～

身体を動かすことは最近減少していますが、健康には気を配っていますので観賞の機会が多くなりました。経営者協会につきましては多業種の会社が多く共通点を見出すには大変なことだと思いますが、

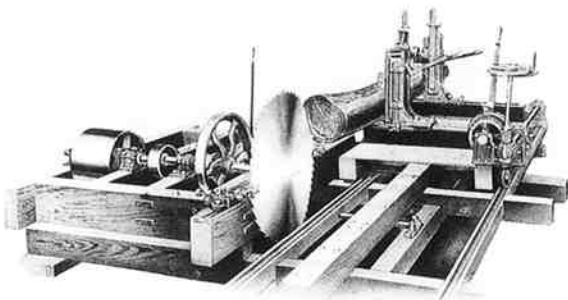


(会社の全景)

会員会社がよくなるためのサービスをより充実をしてくださいます。

～最後に2006年の抱負について考えておられることをお聞かせください。～

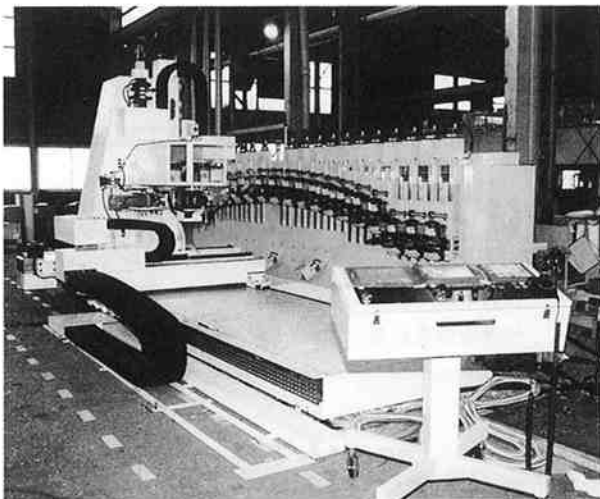
人と自然にやさしい技術の開発を通じて、生活の環境の調和を目指した製品をお届けすることが、会社の社会的使命ですので、より一層、全社一丸となって取り組む決意を新たにしております。



(1897年 菊川式マサツ送り丸鋸機)

◆インタビューを終えて◆

今回は本年11月、会社創立110周年を迎えられる(株)菊川鉄工所の会長さんにご協力を頂きました。会社の歴史について節目、節目のお話を伺うことができ、その深さ、重さについて感銘をさせられました。110周年という実績を短時間の取材で記載しますことは大変なことです。今回のインタビューで、会長さんから「技術と人でやってこれた会社です」と話された背景には、永年にわたり培ってきた、家族的な連帯と信頼関係が源流にあることが、よく理解できました。菊川さんの110周年は我国の木工機械の歴史であり、伝統ある伊勢の歴史と合わせ、改めて、お話を聞かせて頂ける機会を願うものです。



(2004年 航空機用加工機)

◆菊川会長経歴

昭和9年3月生 三重県伊勢市在住

学歴

- 昭和32年3月 慶応義塾大学法学部卒業

職歴

- 昭和32年6月 (株)菊川鉄工所入社
- 昭和32年8月 同社取締役

- 昭和36年10月 同社代表取締役専務
- 昭和44年4月 同社代表取締役社長
- 平成9年6月 同社代表取締役会長

2006
あけまして
おめでとう
ございます



三重県経営者協会

会 長	藤 井 賢 三
副 会 長	菊 川 靖 之
副 会 長	江 崎 俊 夫
副 会 長	久 保 幸 夫
副 会 長	戸 澤 周 純
副 会 長	小 林 長 久
副 会 長	安 永 雅 彦
専 務 理 事	平 松 敏

 株式会社 アバンセコーポレーション 代表取締役会長 林 隆 春 代表取締役社長 中 島 三 好	CS (顧客満足) の向上と人材育成 有限会社 エム・アール・シー 代表取締役 足 坂 三 長 取 締 役 井ノ口 美津子
高機能織物で社会に貢献しています  株式会社 イセオリ 代表取締役 水 谷 信 博	有限会社 オーピーエス 岡島パソコンスクール 代表取締役 岡 島 久美子
ISMS国際認証工場 株式会社 伊勢出版 代表取締役 玉 井 信 吾	おぼろタオル株式会社 代表取締役会長 吉 川 晴 代表取締役社長 加 藤 勘 次
人を取り巻く全ての予防衛生を支援します 株式会社 イムテス 代表取締役社長 小 林 眞一郎	株式会社 菊川鉄工所 代表取締役会長 菊 川 靖 之
三菱化学グループ  明日を創る人材育成会社 株式会社 エムネット 四日市研修センター 社 長 矢 島 徹 穂	株式会社 ぎゅーとら 代表取締役 清 水 秀 隆



<p>クラギ株式会社 代表取締役社長 竹内 秀樹</p>	<p>三交旅行株式会社 取締役社長 藪田 虔悟</p>
<p>冬こそ、御在所へ。 陽光に輝く 樹氷 人と自然のコラボレーション 氷瀑 御在所ロープウェイ株式会社 取締役社長 池田 信政</p>	<p>SAFETY DRIVE SHIMA 大型 普通 二輪 志摩自動車学校 代表取締役 小堀 清生</p>
<p>超硬及びハイス工具研削専用機(設計・製作) —当社は専用工作機械及び金型部品のメーカーです— 株式会社 小林機械製作所</p>	<p>新生サポート株式会社 代表取締役 清本 健一郎</p>
<p>三交興業株式会社 名阪関ドライブイン 名阪上野ドライブイン</p>	<p>セキュリティコスト削減 お任せください (株)セフティージャパン 代表取締役社長 加藤 智</p>
<p>三交興産株式会社 四日市自動車学校 名四自動車学校 取締役社長 横山 等</p>	<p>東邦ガス株式会社 西部支社 支社長 黒川 正機</p>
<p>まかせて安心プロの車検 三交自動車サービス株式会社 取締役社長 森川 正治</p>	<p>湯めぐり海百景 鳥羽シーサイドホテル 代表取締役社長 藤井 俊彰</p>
<p>株式会社 三交タクシー中部 代表取締役社長 河原田 勉</p>	<p>株式会社 トーエネック三重支店 執行役員支店長 岡本 章</p>
<p>三交不動産株式会社 取締役社長 柳生 利勝</p>	<p>株式会社 トーカイマネジメント アソシエイツ 代表取締役 吉井 清二</p>



<p>株式会社 中部近鉄百貨店</p> <p>取締役社長 西川 邦夫</p>	<p>三重交通商事株式会社</p> <p>代表取締役社長 南 正就</p>
<p>日本トランスシティ株式会社</p> <p>代表取締役社長 小林 長久</p>	<p>地域に根ざし世界に誇れる 国立大学法人 三重大学</p> <p>学長 豊田 長康</p>
<p>廣瀬精工株式会社</p> <p>代表取締役社長 廣瀬 壽</p>	<p>世界のロックメーカー ISO9001認証取得 ISO14001認証取得</p> <p> MIWA 美和ロック株式会社</p>
<p>次世代先進物流創造 株式会社 ホンダ・エクスプレス</p> <p>取締役社長 渡井 良三</p>	<p>株式会社 安永</p> <p>代表取締役社長 安永 雅彦</p>
<p>三重いすゞ自動車株式会社</p> <p>取締役社長 種戸 茂一</p>	<p>株式会社 山口商会</p> <p>代表取締役社長 山口 久彦</p>
<p>株式会社 三重カンツリークラブ</p> <p>取締役社長 西山 武</p>	<p>横浜ゴム株式会社 三重工場</p> <p>工場長 金澤 厚</p>
<p>三重交通株式会社</p> <p>相談役 藤井 賢三</p>	<p>三重県経営者協会</p> <p>職員一同</p> 
<p>三重交通株式会社</p> <p>取締役社長 奥田 卓廣</p>	

協会事業活動……写真でみる3ヶ月(10~12月)



◆10月4日(火) 第8回経協コンペ(三重カンツリー)



◆11月9日(水)~11日(金) 全国労働委員会連絡協議会総会(東京・中野サンプラザ)



◆10月4日(火) 三重県産業安全衛生大会会長祝辞(三重県総合文化センター)



◆12月1日(木) 労管部会「HRD部会」(プラザ洞津)



◆10月6日(木) 労管部会「職場に活力を生む人事管理を目指す部会」(プラザ洞津)



◆12月7日(水) 労管部会「活力ある職場風土を目指す部会」(プラザ洞津)



◆10月26日(水) 連合三重定期大会会長祝辞(三重県勤労者福祉会館 6F大ホール)



◆12月16日(金) インターンシップ成果発表会(プラザ洞津)

全国労働委員会連絡協議会総会に参加して

去る、11月9日(水)から11日(金)にかけて、東京中野サンプラザにて全国の労働委員会委員(公益委員98名、使用者側委員104名、労働者側委員103名)と各県労働委員会事務局職員参加のもとで開催されました。

全国労働委員会連絡協議会は昭和21年3月、労働組合法の施行に伴ない労働委員会制度が創設されて以来、戦後の復興期、高度成長期、安定成長期、低成長期と変動するなかで、公労使、三者構成の妙味を生かして、労働争議の調整、不当労働行為の審査を通じて、我が国の労使関係の安定・改善に多大な貢献をして参り、この度平成18年(2006年)3月1日をもって、60周年を迎えるにあたり、今回の総会は創設60周年記念事業を盛り込んだ内容の運びとなりました。

9日には各側(使用者側・労働者側)に分かれ議題の審議を行ない、10日午前中は永年委員表彰と運営委員長による活動報告と質疑応答、意見交換があり、午後には記念講演として、前中央労働委員会会長、現上智大学名誉教授、花見 忠氏より「労働委員会制度と日本の労使関係」についての話を伺いました。その骨子は①労働委員会と私とのかかわり ②戦後の労働委員会機能の推移 ③労働委員会の存在意義が問われている(裁判所との関係と遅延問題) ④紛争処理制度の考え方 ⑤今後の審判員制度について話があり、今日に至りますまでに果たされた役割は大変意義深いものでした。

中でも、どんな社会でも紛争処理には公式な処理(裁判所)と非公式な処理(地方、コミュニティの長が処理)があり、日本的労使協議が非公式(インフォーマル)な処理をやってきたことである。また、労働委員会と裁判所のアプローチは全く違うもので、判断基準も別である、との認識が大切と強調されたことです。

続いて第一議題審議として、パネルディスカッション「今後の労働委員会の展望」では、メンバーとして、藤田耕三、東京都労働委員会会長・菅野和夫、中労委公益委員・佐藤公一、北海道労委労働者委員・杉山幸一、中労委使用者委員・毛塚勝利、中央大学教授(日本労働法学会)・宮里邦雄、弁護士(日本労働

弁護団)・中山慈夫、弁護士(経営法曹会議)、計7名が参加され議論が行われました。労働委員会もっている機能を果たしているかでは、調整の面では簡易、迅速を発揮しているものの審議機能では日数的にみて、世界に出して説明できる状況にない。遅延の原因は多くあるが、和解を中心に動いていることがある。また、参与委員の地位についてもハッキリしていないのではないかと、地労委が希望して地方自治化になったわけでもない。労働委員会の社会的価値としては組合に入っていない人達とどう調和していくかである等、様々な意見交換がされたことです。

11日(金)には第二議題「労働組合法改正をめぐる諸問題について」ですが、この議題は京都府公労使及び神奈川公労使から提案されたもので、まず提案説明から始まり各側代表の意見並びに会場からの質疑と応答がなされ活気ある討議内容でした。

最後に全労委山口会長より、労組法改正をめぐる諸問題については「宣誓手続き」及び「物件提出命令手続き」については会場より各県の取り組みの紹介もあり、いずれも、ほぼ全県的に足並みが揃ってきており、労組法改正への対応については心配のない形で進んでいきますが、何としましても、3年間でこれを実現していくことへの協力要請があり、また、会場から出された意見で命令書における主文のありようについては、検討を加えていく旨を話され盛会裡に終わることが出来ました。

三重県労働委員会使用者側幹事 大田 弘純





新会員の紹介

(入会順)

●新生サポート株式会社鈴鹿営業所

所在地 鈴鹿市江島町1511
 サトウビル202号
 代表者 代表取締役 清本 健一郎
 電話 0593-80-6688
 F A X 0593-80-6657
 事業内容 業務請負業、
 人材派遣業



●株式会社若鈴

所在地 津市広明町345-1
 代表者 代表取締役 倉田 一夫
 電話 059-226-4101
 F A X 059-224-4720
 事業内容 測量、調査、
 設計



●太門通商株式会社

所在地 鈴鹿市大池2-1718
 代表者 代表取締役 水谷 芳次
 電話 0593-70-0878
 F A X 0593-70-0993
 事業内容 運輸に附帯する
 サービス業



●国立大学法人三重大学

所在地 津市栗真町屋町1577
 代表者 三重大学長 豊田 長康
 電話 059-231-9004
 F A X 059-231-9000
 事業内容 学校教育 (大学)



いざなぎ景気

▽…日本の戦後で最も長く続いた景気の拡大局面。1956年から70年の57カ月も景気が拡大した。内閣府などによると「いざなぎ」は古い神話に登場する神様の名前で、最初に国土をつくり上げたと言われる。それほど昔にさかのぼらないと、この期間の好況が言い表せないとの理由から通称に使われた。
 ▽…まず鉄鋼や石油化学など幅広い業種で設備投資が盛んになり、景気を押し上げた。所得も順調に増え、家庭に「新三種の神器」と呼ばれたカラーテレビ、クーラー、自動車が普及した。

戦後の主な景気拡大

名称	時期と特徴
いざなぎ景気	1965年11月～70年7月 (4年9カ月) ○テレビ、自動車、クーラーが普及
バブル景気	1986年12月～91年2月 (4年3カ月) ○日経平均株価が4万円弱の最高値に
現在の景気拡大	2002年2月～ (12月で3年11カ月) ○「踊り場」ありながらも穏やかに回復

編集後記

第3号は新年に因んで「再出発」に視点を合わせ編集をいたしました。イメージしていたものとは記載不足を感じるのですが、皆さんにお気持ち伝わればと願っております。昨年、12月、たしか、その年を表現する題字として「信」という字が放送されていました。人(家族)、社会、国、企業、行政等々に対する不信が多くありましたが、本年は信じあえる、助け合える、喜びあえる年にしたいと願っております。人のふるまい、行動は必ず性格を通じて現われることとして $B=f(P \cdot E)$ を思い出し、結局、人柄(能力・性格)が大事であり、特に性格だと言われた故南先生の教えが今も当時のまま残っています。

B…Behavior(行動)
 f…function(関数)

P…Personality(人柄)
 E…Environment(環境)